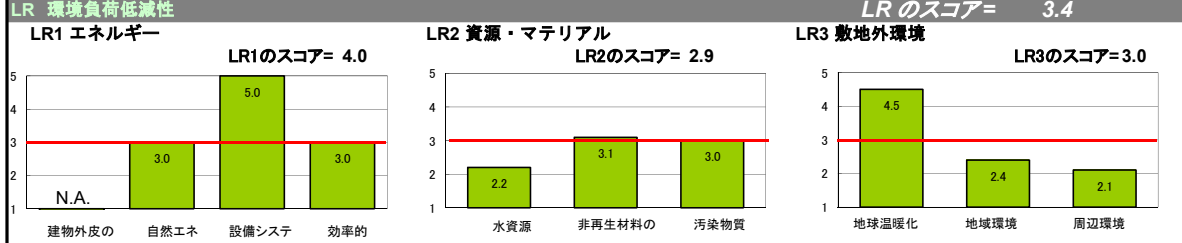
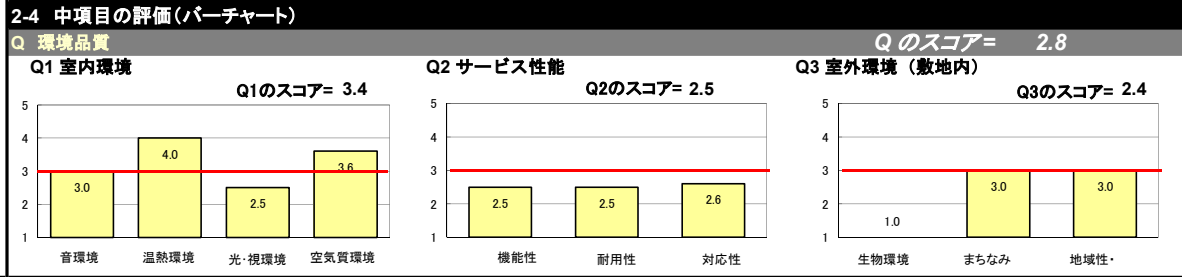
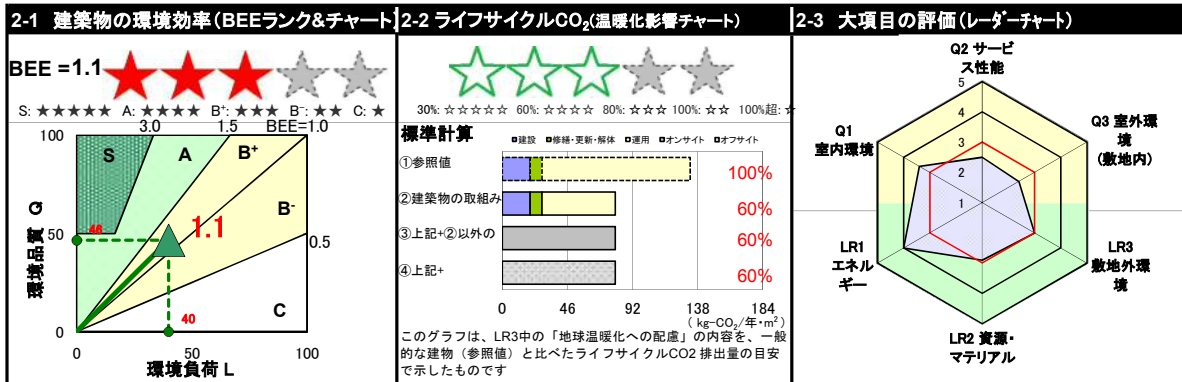


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西口住宅	階数	地上7F
建設地	愛知県豊橋市高師町字北原1-96、	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、法22	平均居住人員	140 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年4月 予定	評価の実施日	2017年10月1日
敷地面積	3,973 m <sup>2</sup>	作成者	平山晴行
建築面積	637 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,558 m <sup>2</sup>	確認者	



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">7.5 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>各住戸玄関に使用するタイル</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



<b>3 対応性・更新性</b>					3.0	0.29	2.6	2.6	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり					-	-	2.2	2.2	-	0.50
1 階高のゆとり					-	-		3.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ					-	-		1.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり					-	-		3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性					3.0	1.00				-
1 空調配管の更新性		②			-	-				-
2 給排水管の更新性					-	-				-
3 電気配線の更新性					3.0	0.25				-
4 通信配線の更新性					3.0	0.25				-
5 設備機器の更新性					-	-				-
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.50				-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.30				-
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30				-
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40				-
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30				-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50				-
3.2 敷地内温暖環境の向上					3.0	0.50				-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										-
<b>LR1 エネルギー</b>						0.40				-
1 建物外皮の熱負荷抑制					-	-				-
2 自然エネルギー利用					3.0	0.25				-
3 設備システムの高効率化				BEI=0.76	5.0	0.50				-
4 効率的運用					3.0	0.25				-
集合住宅以外の評価					-	-				-
4.1 モニタリング					-	-				-
4.2 運用管理体制					3.0	0.50				-
集合住宅の評価					3.0	1.00				-
4.1 モニタリング					3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制					3.0	0.50				-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30				-
1 水資源保護					2.2	0.15				-
1.1 節水					1.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00				-
2 雑排水等利用システム導入の有無					-	-				-
2 非再生性資源の使用量削減					3.1	0.63				-
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		②			4.0	0.20				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自			2.0	0.05				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		パーテイクルボード:床、合板、壁	3.0	0.24				-
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22				-
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68				-
1 消火剤					-	-				-
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50				-
3 冷媒					3.0	0.50				-
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30				-
1 地球温暖化への配慮		①		ライフサイクルCO2の排出量:84%	4.5	0.33				-
2 地域環境への配慮					2.4	0.33				-
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				-
2.2 温暖環境悪化の改善					2.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自			3.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮					2.1	0.33				-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40				-
1 騒音		独自			3.0	0.33				-
2 振動		独自			3.0	0.33				-
3 悪臭					3.0	0.33				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					1.6	0.40				-
1 風害の抑制					1.0	0.70				-
2 砂塵の抑制					-	-				-
3 日照障害の抑制					3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制					1.6	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					1.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				-

**重点項目スコアシート**

西口住宅

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.5</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.5	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.5	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:7.5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>2.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	各住戸玄関に使用するタイル

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	室内的には遮音性、断熱性、省エネ性、室的には防犯、バリアフリー、利便性に重点を置いた住環境を計画した。
Q1 室内環境	室内の遮音性能や断熱性能に配慮した計画とした。
Q2 サービス性能	バリアフリーに配慮した計画とした。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯に心がけ、見通しのよい外観とした。 各住戸玄関に使用するタイルは県産材とした。
LR1 エネルギー	外皮の断熱性能を高くし、LED照明の採用等、設備機器の省エネ化を行うことにより、一次エネルギー消費量を抑えた。
LR2 資源・マテリアル	内装材はグリーン調達品とした。
LR3 敷地外環境	駐輪場スペースを十分に確保することにより、自転車利用者の利便性に配慮。 また、交通負荷の抑制を考慮し、駐車場を2か所に分けた。
その他	なし